



# すぎさん

<http://www.suginami-school.ed.jp/suoi3shou/>

令和3年12月号

杉並区立杉並第三小学校  
〒166-0003 杉並区高円寺南 1-15-13  
TEL 03-3314-1564  
FAX 03-3314-1449

## 乗り越えた先のたくましい姿

副校長 板垣 聡美

昨年度行うことができなかった「学芸会」を今年度やっということができました。“子ども達に表現活動を経験させたい”との願いがあり、順番では展示会の年でしたが、今年度は学芸会を行うことにしました。そして、コロナ禍でできる内容に、計画を練り直しました。演目の時間の短縮、手の込んだ大道具は作らずステージの壁にプロジェクターで映す、密になる舞台袖はできるだけ使わずフロアに置いたひな壇を活用する。運動会とは違い会場が屋内の体育館なので感染症対策は特に徹底する。第1部は2、4、5年生、第2部はしいのみ学級、1、3、6年の二つに分けた2部制で行い参観者も制限して行うことにしました。

演目の指導ですが、本校は1学年1学級ですので、台本の作成、背景の作成、音楽の選定、演出も担当が一人でやることになります。そこで、専科の教員が分担して学年練習の指導に入り、担任と専科が連携して行いました。また、普段は杉三小の指導日以外は巡回指導で他校を回っているすぎさん教室の教員も当日、受付や保護者の皆さんの誘導を担当しました。これらの教職員のチームワークの良さも本校の宝です。

3年ぶりの学芸会ですから、経験したことのあある学年は4年生以上で、全校の半分は初めての状態でした。

代表委員が各クラスから意見をつのり、学芸会のスローガンを「自分たちの思いや熱意を、演技で届けよう」として、各学年の取り組みがスタートしました。低学年は、ステージのひな壇に座り、そこから演技をする場所へ移動して、またひな壇に戻ってくる。自分の場所を覚えることから始まりました。中学年は、場面やグループ毎に演技や表現について話し合い、グループで練習を繰り返

し、全体練習で確認し合いました。高学年は、実行委員会を組織して、練習を運営するところから行いました。練習の始めにめあての確認をして、終わりにめあての振り返りを積み重ね、自分たちの目指す表現を磨いていきました。しいのみ学級は、1.2年はねずみ、3.4.5年はねこ、6年はおじいさんの役に分かれ、それぞれの役の練習をしました。

学芸会への取組期間、子ども達は毎日新しいことへの挑戦でした。久しく大きな声を出すことが無かった子ども達はマスクをしたままセリフを言うことも大変でした。人前で演じることの恥ずかしさがあり、それを乗り越える自分との戦いでもありました。長い長い台詞が覚えられずに家でも練習して、何日もかけて覚えきりました。自分が演じる役は今どんな気持ちなのだろう、それであれば、どんな表情で相手を見ているだろう。役になりきることで、体が自然に動き、目線が相手を見つめました。この場面で、台詞のない自分がどんな動きをすれば、この場面の状況や雰囲気や伝えられるだろう。セリフのない部分の演技も工夫しました。振り返りの中で、友達の演技の上手いところを認め合い、自分たちの演技に生かそうと話し合いもしました。

学芸会後の子ども達の感想に「心が一つになった」との言葉が多くありました。一人一人の成長と共に、学級のみならず同じめあてに向かって真剣に取り組んだ先に、今まで見たことのない景色や感情がこみ上げてきたに違いありません。

行事には、行事でしか得ることのできない大きな学びと成長があると私は思います。その行事という大きな山を乗り越え、一回り大きくなった子ども達に出会うこの瞬間に幸せを感じます。